

第3回文京区アカデミー推進協議会(生涯学習分科会) 議事要旨

日 時	平成27年7月7日(火) 19:00～20:30
会 場	文京区シビックセンター3階 大ホール会議室1
委 員	会 長 田中 雅文 (日本女子大学教授) 委 員 柳澤 愈 (文京アカデミア学習推進関係委員会、文京区アカデミア 講座企画委員会 委員長) 委 員 塩見 美奈子 (文京区生涯学習サークル連絡会 会長) 委 員 田中 ひとみ (文京区女性団体連絡会 広報部長) 委 員 小林 博 (区民公募委員) 委 員 黒木 美芳 (区民公募委員) 委 員 黒田 千恵子 (区民公募委員)
欠 席	委 員 平井 宥慶 (文京区民生委員・児童委員協議会 会長) 委 員 増田 純 (区民公募委員) 委 員 松井 良泰 (公益財団法人文京アカデミー 事務局長) 委 員 三谷 規子 (文京区青少年委員会)
事務局	山崎 克己 (アカデミー推進部アカデミー推進課長) 福田 昭正 (アカデミー推進部アカデミー推進課アカデミー推進係長)
支援事業者	株式会社創建 氏原・本多
資 料	・「次第」及び「第3回分科会の進め方について」 ・施策体系(案)

議 事

1. 開 会

2. 議 題

「①分野別計画の新しい体系案について、基本目標・基本的な方向」について事務局から説明の
のち、意見交換を行った。

田中会長	新しい体系(案)の「分野別目標2(2)活動成果披露の場の充実」と「分野別 目標2(3)人材活用の推進」は違いを明確にした方がよい。「分野別目標2 (3)人材活用の推進」には人材育成の視点があってもよいのではないかと。
黒木委員	「分野別目標3学びを継続し、生きがいにつながるための仲間づくり」につ いて、仲間づくりは交流を拡大することが重要だと考えている。「生きがいづ くり」より、広がりのある表現にしてはどうか。
田中会長	「学びの継続」と「交流の拡大」、「コミュニティづくり」といった表現にできると よい。

黒田委員 体系が「1学ぶ」「2活かす」「3広げる」くらいわかりやすい表現でもよいかもしれない。
施設の活用については、活かさきれていない施設の活用方法を検討していけるとよいと感じている。樋口一葉ゆかりの旧伊勢屋質店などうまく活用できるとよいのではないかと。区が積極的な姿勢を示せるとよい。

田中会長
事務局 生涯学習の場として活用できる施設を増やしていけるとよい。
施設整備は進んできている。区として前向きに取り組んでいけるとよいと考えている。

黒田委員 文化・芸術分野とも連携して、そういった施設を活用する機会が増えていくとよい。

田中会長
塩見委員 生涯学習の分野に限らず、庁内で横断的に取り組めるとよい。
施設の活用について、情報をうまく共有できる仕組みがあるとよい。町会の集会所は結構空いていたりする。

田中会長
塩見委員 地域の資源という観点で、集会所を活用していけるとよい。
利用の少ない施設は開放できるとよい。

田中委員
事務局 「分野別目標2(2)活動成果披露の場の充実」について、同じテーマの活動成果の発表会はうまくまとめて交流の機会にできるとよいのではないかと。また、「文の京生涯学習司」は講座修了後のアフターフォローについて、方向性が定まっていらないように感じている。
「文の京生涯学習司」は目的が当初から少し変わってきていると認識している。元々は講座の講師育成が目的であったが、現在は参加者の活動の場としても捉えられている。区としても「文の京生涯学習司」の講座修了者は地域のプロデューサーのような役割を担ってほしいと考えている。

田中委員
田中会長
黒木委員 「文の京生涯学習司」養成講座をより充実していけるとよいと考えている。
「文の京生涯学習司」の活用方法も検討していきたい。
「文の京生涯学習司」の活動をうまく周知していけるとよい。地域に密着していくことも重要だが、その取り組みを発信していくことも考えていけるとよい。
「文の京生涯学習司」も「文の京地域文化インタープリター」も活動を広報していく仕組みを考えていきたい。

田中会長 広くPRしていく仕組みを考えられるとよい。
区と公益財団法人文京アカデミーがうまく連携していけるとよい。

小林委員
事務局 体系案の中で人材育成についてはどこでふれているのか。
「分野別目標2(3)人材活用の推進」の中に位置づけられるとよいと考えている。

黒木委員
事務局 「分野別目標2(3)人材育成・活用の推進」としてはどうか。
冒頭に田中会長からご指摘もあった。修正する。

柳澤委員 人材育成の取り組みについて、「文の京生涯学習司養成講座」や「文の京地域文化インタープリター養成講座」で参加者を増やしていけるとよい。

田中会長 公益財団法人文京アカデミーや区民と協力して参加者を増やす取り組みを考えたい。また、人材の育成と活用という視点を表に出していけるとよい。

塩見委員 活動成果を披露するにあたり相談できる場所があるとよい。

黒木委員 「文の京生涯学習司養成講座」を修了した方を登録・活用する仕組みがあるとよい。講座の修了者は自分の地元の地域に戻って活動するだけでなく、全区的に活動の場があるとよい。

田中会長 ほかに意見はあるか。

黒田委員 5分野全体に関わる話だと思うが、2020年東京オリンピック・パラリンピックについてどこかで触れるのか。

事務局 5分野全体での位置付けをあらためて検討していく。

黒木委員 受身ではなく、交流という視点で2020年東京オリンピック・パラリンピックについて積極的に取り組んでいけるとよい。

小林委員 図書館づくりについて、情報の集約・整理以外に取り組めることはないか。

田中委員 区内の図書館はそれぞれでイベント等の取組みを行っているが、情報があまり広がっていないように感じる。

事務局 もう少し広い意味で図書館の情報収集・整理についての取組を位置づけられるとよいと考えている。

柳澤委員 図書館では様々な取組みが行われている。区で全体の動きを把握できているのか。

田中委員 指定管理者に委託する段階で司書の割合など、条件を指定しているのか。

福田委員 業務委託の際に状況を把握している。職員のうち司書が50%以上とするなど、仕様に明記している。

黒木委員 個々の図書館の取組みを集約して生涯学習の機会として整理できるとよいのではないか。

黒田委員 図書館で行われている講座全てを一覧できるとよい。

事務局 その点は区の課題だと認識している。

田中会長 図書館が、より深く学びたいと考える人の要望を応えられる場であるとよい。

黒木委員 生涯学習に「どこでも」という視点が入るのであれば、区を越えて、他の区の大学の公開講座の紹介なども行えるとよいと思う。

黒田委員 チラシを置く棚を大きくするといったことであれば難しい話ではないのではないか。

田中会長 開かれたネットワークを構築し、情報を共有していけるとよい。

黒田委員 他の分野の話になるかもしれないが、生涯学習に関わっているとスポーツに関する情報があまり入ってこない。

田中委員 スポーツについては様々な取組があるが、一つの分野として情報が閉じているように感じる。

黒田委員 スポーツに関する情報はスポーツ振興課にあるということを一言でも案内できるとよいと感じている。

田中会長 区全体の中でバランスを取りながら情報のネットワークを作っていけるとよい。

柳澤委員 生涯学習の場として学校をうまく活用できないか。インターネットも活用して、生涯学習の場として公開していけるとよい。

事務局 地元の人たちへの便益を図る意味でも、オープンに利用者を募ることは、検討の余地があるかもしれない。

黒田委員 放送大学も施設としてうまく活用できるとよい。
図書館のインターネット検索が24時間使えるとよい。

福田委員 平成29年度のシステムの更新時期に対応を検討する。

田中会長 旧伊勢屋質店などの施設を生涯学習の場として活用する仕組みは重視しておきたい。
このほか意見はあるか。

黒木委員 学びを通じた交流の拡大に取り組むということをどこかに入れておくべきではないか。交流することが学習において非常に重要だと考えている。ライフステージごとに交流を拡大する取組も考えられるとよい。

田中会長 交流を通して学びの視野を広げるとことを考えていけるとよい。

黒木委員 交流に関わる事業を組み込んでいけるとよい。

黒田委員 国と文京区が連携した事業はないか。

田中委員 伝統文化や子どもに関わる事業がある。

田中会長 「交流」を考えた時に、世代間・異文化間・国際交流の中でこぼれ落ちる人がないように確認していきたい。他の所管課への調査等は行うのか。

事務局 これから他の所管課へ照会をかけ、事業を精査していく予定である。

田中会長 より広く学ぶことを考えた時に、アカデミー推進課の他の分野との連携は非常に重要である。

黒田委員 生涯学習のサークル紹介等、情報をうまく周知していけるとよい。

柳澤委員 学習の成果を活かすことから仲間づくりということまで考えていけるとよい。

田中会長 区民課の事業と関わるかもしれないが、地域、暮らし、文化、地域コミュニティの視点で施策を考えていけるとよい。

黒木委員 サークル活動も生涯学習司等が間に入って、仲間づくりまでつなげていけるとよいかもしれない。

田中会長 つながるきっかけづくりの役割を担う人材が求められているということか。学びを通じたコミュニティづくりという視点を3つ目の体系に落とし込めるとよい。
学びについて、多様な場を設けてこぼれ落ちる人がいないような体系を構築し、また、学びの場から活用までの橋渡しをして生涯学習を推進していく視点を大事にしていきたい。

3. 閉 会

以上